

<p>団体名</p> <p>糸満市教育委員会</p>	<p>連絡先 TEL : 098-840-8165</p> <p>Eメール : gakkou-kyouiku@city.itoman.lg.jp</p>
-----------------------------------	--

実践事項 (③)

タイトル：「糸満市学力向上推進協議会主要施策の取組」

糸満市の学力向上推進の目標

幼児児童生徒一人一人に確かな学力などの生きる力を育む

～支持的風土の学級・学校づくり・子供主体の学び合い

高め合う授業づくり・地域と共にある学校づくりを通して～

I 支持的風土の学級・学校づくり

①温かく良好な人間関係づくり

- ・支持的風土（互いに認め合い、支え合う集団）づくりの4つのポイント（安心・所属・承認・自立）を踏まえた教育活動を推進する。
- ・自己肯定感や自己有用感を育む学級・学級づくりを推進する。
- ・魅力ある学校づくり及び特別支援教育の視点を取り入れた研修会を行う。

②学級経営や生徒指導の指針づくり

- ・アイチェックテスト活用についての研修会を推進する。
- ・アイチェックテストの実施（年1回）（小学校3年以上中学3年生まで）する。

③児童会・生徒会の自治活動を目指した学校づくり

- ・児童会・生徒会を中心とした取組推進する。
- ・全校児童生徒一人一人を大切に、積極的に関わる児童会・生徒会を育成する。
- ・生徒指導4つのポイント（自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成）を大事にした学びに向かう集団を育成する。

④子供にとって、いじめのない、安心、安全な学校づくり

- ・各学校においては、「校内いじめ防止基本方針」を踏まえ、早期発見のためのアンケートの見直しや「校内いじめ対策委員会」の組織的な対応等、実効性のある取組を実施する。
- ・特別な教科道徳の時間を中心に全校体制で道徳指導の充実を通して「豊かな心の育成」を推進する。
- ・特に「命の大切さ」については繰り返し指導する。



【キャラクターを活用した学校づくり】



【児童が企画した生徒指導関連の動画】



【管理職を対象とした研修会】

Ⅱ 子供主体の学び合い高め合う授業づくり

①学びの質を高める授業改善・学校改善

- ・「学力向上推進5カ年プラン・プロジェクトⅡ」を活用し授業改善・学校改善を進める。
- ・「3つの視点」と「5つの方策」の趣旨を理解し、その質的改善に努める。

②キャリア教育の視点を踏まえた授業づくり

- ・キャリアパスポートについての研修会
- ・目的意識の高揚や学ぶ意義・学ぶ意欲の向上をめざす学習を推進する。
- ・勤労観や職業観を育む地域教育資源等の活用を推進する。

③必要な資質・能力を育むための主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の構築

- ・「問い」が生まれる授業サポートガイドの活用を推奨する。
- ・グループ学習を推進（ペア学習 グループ学習）する。
- ・ICT活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- ・中学校区ごとの幼小中連携公開授業を推進する。
- ・「糸満市保幼小連携支援事業」の成果を引き継ぎ、就学前から就学までのスタートカリキュラム及びアプローチカリキュラムを踏まえた幼小連携の推進する。
- ・自立して学ぶ児童生徒の育成に向けた「自学自習力」の育成を図る。

④カリキュラムマネジメントを意識した教師の教科等指導力の向上

- ・学年会や教科会で授業構想を練るなど一人一人の授業力向上を図る取り組みや主体的に職員相互が学び合う校内研修の充実を図る。
- ・全ての教師が授業を公開し、管理職による日々の授業参観とフィードバックをもとにした 授業改善の推進を図る。
- ・当該学年の学習内容の確実な定着を図り、学級間差のない具体的な取組を実施する。
- ・多様な教材研究の方法を共有し、組織的な教材研究の充実を図る。
- ・市教委主催市内小中学校合同研修会（今日的教育課題に対応した研修など）の充実を図る。
- ・市外国語教育推進協議会及び AET を活用した外国語教育の充実を図る。



【高校入試の調査書説明の掲示】



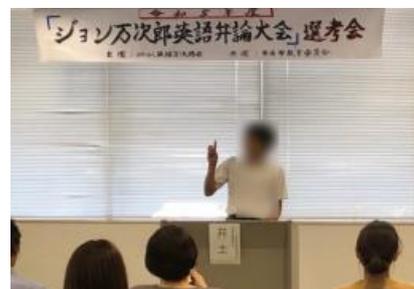
【個別最適な学びの公開授業】



【自学自習に関する掲示物】



【AET を対象としたの公開授業】



【ジョン万次郎弁論大会の様子】

⑤各種調査等の結果を活用し、指導充実に努める。

- ・全国学力学習状況調査、県学力到達度調査、学力 Web 調査、小学校3年生と中学1年生対象にした知能及び学力検査等の結果分析と授業づくりに係る資料等の活用を通して授業改善の充実を図る。

⑥個に応じたきめ細かな支援

- ・特別支援教育等支援員派遣での支援や特別支援教育の充実を図る。
- ・学習支援等支援員による学習支援の充実を図る。

Ⅲ 地域と共にある学校づくり

※方策3：支える【発達の支援】

①コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の推進により、学校と地域が熟議を重ね目標やビジョンを共有し、地域学校協働活動による地域人材・資源を活かした学校運営の推進することで、地域と一体となった学校づくりを推進する。

②学習を支える力の育成と保護者や地域・関係機関との連携の強化・PTAとの連携（規範意識・基本的な生活習慣の形成・早寝早起き朝ごはん元気に徒歩登校・体力向上に係る一校一運動の推奨・家庭学習の習慣化・対話の充実）。

- ・民生委員・児童委員・青少年育成市民会議・警察等との連携（健全育成の取り組み）。
 - ・地域自治会・青年会等との連携（地域における子どもの居場所づくり）。
 - ・こども未来課・保育こども園課等との連携（放課後児童クラブ等の子どもの居場所づくり、預かり保育、認定こども園での対応）。
 - ・放課後児童デイサービス機関との意見交換会
 - ・幼児から中学までの保護者交流やPTAの共通した取り組みや交流を通して、学校を核とした「わったー学校」として地域の学校づくりを展開する。
 - ・適応指導教室「とびうお教室」、自立支援室「希望（のぞみ）」における学習支援や学校復帰への支援を行い、教育相談員の相談活動の充実で学校への適応を図る。
- ③教育委員会各課との連携
- ・各課との課題の共有化。（熟議による課題の焦点化 共有化）
 - ・地域学校本部事業の推進。（生涯学習課）
 - ・スポーツ少年団・部活動のあり方について協議。（観光スポーツ課）
 - ・放課後子ども教室事業の推進。（生涯学習課）
 - ・コミュニケーションづくり。（協議の場、熟議の場づくり）
 - ・学力向上推進に係ること。
 - ・地域における子どもの居場所づくり。（こども未来課・社会福祉課）
 - ・地域教育力の向上及び青少年健全育成に関すること。
 - ・子ども支援サポーターの連携や学習支援室「いまなび」等の積極的な活用、学習ボランティアの推進。（社会福祉課など）



【CSマイスターによる講話】



【協働による演奏会】

成果と課題

成果・自学自習については、「けてぶれ」「夢ノート」「スケジュールノート」等の取組が行われ、市教委の学校訪問では掲示物等が見受けられた。

- ・学推担当研修において2年間「個別最適な学び」の公開授業を行うことができた。
- ・市内小中学校管理職に向けて、外部講師による「学校危機管理」研修を行った。
- ・継続で同じCSマイスターによる講話を実施し、CS（学校運営協議会）を推進した。

課題・ICT活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の授業作りの学校間差がある。

- ・市PTAと連携した糸満市学力向上推進協議会の対面開催ができなかった。